

# 補助金を活用した設備導入で 薄型置き畳の内製化をバックアップ

## 課題

### 需要が減少するなかで 差別化を図りたい

「畳工房いくた」の前身は、経営者の父が瀬戸内海の屋代島（周防大島）の旧・東和町（現・周防大島町）で1965年に創業した会社で、畳の製造・販売と豆腐の卸売業を営んできた。それを1997年に事業承継して法人化。経営者を代表として兄弟でそれぞれ畳事業と豆腐事業を手がけてきた。しかし、ひとつの会社ながら、双方の事業は独立していて、シナジー効果がないことから、2017年、各事業にわかれる形での法人を解散。畳事業は、「畳工房いくた」として新たなスタートをきった。畳製造22年の経験をもつ経営者は、全国畳産業振興会から畳全般に関するアドバイスを行うプロフェッショナル「畳ドクター」にも認定されている。50歳とまだ若く、新しい事業にも意欲が高いのも特長だ。

しかし、ライフスタイルや住宅環境の変化により、全国的に畳の需要は減少している。売り上げを上げるためには、積極的な営業活動で近隣市町まで商圏を広げなければならない。そのためには、営業時間を捻出するための生産性の向上が不可欠だ。また、顧客からのニーズで扱っている超薄型置き畳は、内製化できないため外注での対応となっている。これを、オーダーメイドによる自社製造に切り替え、ニーズにあった製品を提案できれば、他社との差別化につながり、顧客獲得につながる可能性があった。

## 支援

### ものづくり補助金を活用し 差別化を後押し

周防大島町商工会では、法人解散の際から専門家派遣を通してアドバイスを行うなど、法人から個人事業へのスムーズな移行を支援してきた周防大島町商工会に、経営者から相談が寄せられた。「薄型置き畳を製造できる機械を導入したい」という。

話を聞いた商工会は2018年、ものづくり補助金の活用を提案。事業計画の策定に向け、専門家派遣も活用しながら申請支援を行った。あわせて、経営力向上計画や先端設備導入計画の申請も支援し、認定され、ものづくり補助金の採択につながった。

こうして導入された設備で、同店の生産性が向上し、1日あたり120分の製造時間短縮を実現。これにより、営業活



ものづくり補助金で導入した機械

動にあてる時間を捻出することができた。また、フローリングの部屋でも手軽に模様替えができる薄い畳製品を自社製造できるようになった。その後、2019年には小規模事業者持続化補助金で薄型置き畳のPRのため、ホームページの作成や、折込チラシの作成・配布を実施。販路開拓支援も行っている。この取り組みを通じて、経営者が自ら計画書を作成する力が身につく、事業を実行していくうえでのPDCAサイクルが確立できた。そして、さまざまなニーズに対応する多様な畳を訴求することができるようになり、他社との差別化ができ、売り上げの拡大が見込めるようになった。

## 支援の経過

期間	支援内容
2017年5月	創業支援
2018年	経営力向上計画、先端設備導入計画、ものづくり補助金の策定支援
2019年	持続化補助金の申請支援

## 会社概要

会社名：畳工房いくた  
住所：山口県大島郡周防大島町大字和田1383  
電話番号：0820-75-0251  
URL：<https://tatamikoubou-ikuta.com/>  
代表者名：生田哲也  
創業年：2017年（個人事業化）  
従業員数：1名  
商工会名・担当者名：周防大島町商工会・前貴棋